

第九回新城薪能

とき 平成十年八月二十二日(土)
午後六時始
ところ 新城文化会館大ホール
入場無料

能組

仕舞

老松 狸々 舟弁慶

今泉友美 下山敬子 中嶋薫

火入式

新城市議会議長
新城市教育長

藤野章一
小林芳春

仕舞

七騎落 国栖 嵐山

中川 齊 村木岳史 清水俊典

連管

序之舞

加藤 貢 太田 研司 今泉 英三 酒井 淑規

連吟

六浦

杉山 斐子

下嶋 末子 平本 太刀子 小林 寿枝 辻田 育代 野沢 さよ子

鈴木 芳子 永田 聡子 竹下 京子 星野 弘子 水谷 麻朱子 加藤 佳子

ごあいさつ

新城市長

山本 芳央

仕舞

蝉丸 桜川クセ

辻田 育代 星野 弘子

(観) 連吟

三井寺

新城観世会有志

独調 網之段

中村邦生

今岡アイ子

仕舞 養網之段丸

加藤佳子
水谷麻朱子
竹下京子

連調 蟬丸

栗谷明生
中村邦生

星野弘子
鈴木芳子
永田聡子
水谷麻朱子

小林寿枝
平本太刀子

狂言 止動方角

太郎冠者 水谷至男
主 大原正巳
後見 佐野元之助

伯父 小林常男
馬 中山伸一

能 塚

シテ 清水利高

ワキ 竹内佐武朗

ワキツレ 加藤 貢
問畑 中良雄

大鼓 河村総一郎
小鼓 森田 收

大鼓 中嶋康夫
笛 酒井淑規

後見 栗谷明生
鈴木 肇

地謡 太田研司 栗谷浩之
田中洋二 栗谷能夫
竹内省吾 中村邦生
鈴木崇史 太田康弘

附祝言

(終了予定九時三十分頃)

主催 新城市文化協会
後援 新城市
新城市教育委員会
新城市観光協会

あらすじ

狂言 止動方角（しどうほうかく）

茶くらべに行きたい主人は、馬と太刀と茶壺がないので、太郎冠者に命じて伯父のところへ借りにやらせます。伯父から馬に変な癖があり、うしろで咳しわぶきをすると暴れるので気をつけるよう注意を受けます。

その時の馬を鎮めるための呪文も教えてもらいます。

主人は帰りが遅いと叱りつけ、馬に乗って先へ行こうとします。腹を立てた太郎冠者は、咳をわざとして主人を落馬させてしまいます。

怒った主人が……

能、黒

塚（くろづか）

奥州の安達原で行き暮れた回国行脚中の熊野の山伏祐慶の一行が、野中に一軒家を見つけて宿を乞う。作り物の中にいる家主の里女は、一旦は断わるが、たつての願いに根負けして山伏たちを家に入れるので、作り物を出す。家の中に見なれぬ粹袴輪わくかせわ（糸繰り車）を目にとめた祐慶が頼むと、女はそれを回して糸を繰りはじめ、渡世の業に身を苦しめる果報のつたなさを恨み、老いの訪れの早さを嘆く。

やがて調子をかえて浮き浮きと糸尽しの歌を謡い、転じて長き命のつれなさをかこち、糸車を繰るのをやめて泣きくずれる。

夜がふけて冷えこみも厳しくなる。と、女は上の山から薪を採って来るといい、行きさして振り返り、私の閨わやを決してのぞくなど念を押す。行きかけた女の後姿には、すでに鬼の気配がある。（中入）

能力のうりき（間）は、祐慶の目を盗んで閨の内を見ると、人の死骸のおびただしさ、腐の物凄さに驚く。

能力の報告に驚いた山伏たちが、一目散に逃げて行くと、鬼女と変じた女が薪を背に火災を放ち、雷鳴をとどろかせて、一口に食おうと鉄枝を振りあげて襲いかかる。祐慶は五大明王の功力を頼み、数珠をもんで祈り、両者は激しくせめぎ合うが、鬼女はついに祈り伏せられ怨みを残しながら夜風の中へ去って行く。

薪能（たきぎのう）

この名称は夜になって薪をたいて、それを照明がわりに演能するところから来た名称ではない。もとは「薪の神事」などと称して新年に御薪を寺社に献進する儀式で、一種の春迎えの信仰行事であった。それに伴って行われる猿樂が「薪の猿樂」であった。奈良の「薪能」は奈良時代に起こった行事で、興福寺の修二会しゅにえに鎮守の社から東西金堂へ行法のために薪を積む儀式であり、その時翁式の聖者が薪を負うてまうことが芸能化した。初めは寺に所属する呪師しゅしが司っていたが、後猿樂者が代行するようになった。能樂が大成後は金春座が責任者となり、他の座も参勤していたが、明治以降は中絶、戦後昭和二十一年復活、昭和二十五年京都薪能が平安神宮で催されて以来、各地で大衆野外能として流行するようになった。

新城に於ては新城文化会館が完成したのを契機に、平成二年第一回新城薪能が新城市文化協会主催で催され大好評を得ました。富永神社の祭礼能とは別に、流派を問わず誰でも参加出来ることとなり、正に「能の里」を目指して参りたいと存じます。現在全国で二〇〇カ所程薪能が催されていますが、全部職分の先生方の演能であります。新城薪能だけが素人による演能であることが特徴であって、今後永い伝統を持つ祭礼能と共に、薪能を新しい伝統として守り発展させて参りたいと存じて居ります。今後とも皆様方のご支援をお願い致します。

薪能の短歌・俳句を募集しております。あなたの作品を文化協会事務局へお寄せ下さい。

謡・仕舞・囃子（笛、小鼓、大鼓、太鼓）・狂言のお稽古をなさりたい方はお気軽に文化協会事務局へお申し込み下さい。それぞれの向きにお世話を致します。